

AMDA ジャーナル ダイジェスト

発行：2014年6月 No.42 定価 150円
 発行元：〒700-0013 岡山市北区伊福町3-31-1
 認定特定非営利活動法人 アムダ：AMDA
 TEL 086-252-7700 FAX 086-252-7717
 E-mail:member@amda.or.jp
 編集：AMDA ボランティアセンター
 ホームページ：http://www.amda.or.jp

AMDA 東日本復興支援事業

2011年3月11日に発生した東日本大震災に対して、AMDAは翌日から医療チームを被災地へ派遣し、緊急医療支援を開始。約50日の緊急支援活動を経て、2011年5月1日より復興支援活動を行っています。2014年3月までを「第1次復興支援3か年事業」として「医療・健康」「教育」「生活」を柱としたさまざまな復興支援事業を行いました。現在、2014年3月から「第2次復興支援3か年事業」として、広がりを持った復興支援事業を継続しています。

鍼灸治療支援活動（岩手県上閉伊郡大槌町、宮城県石巻市雄勝町）

災害発生後の急性期において、非常にニーズの高かった鍼灸治療を、復興支援事業の一つに位置づけ岩手県上閉伊郡大槌町、宮城県石巻市雄勝町の2か所で、それぞれ地元の鍼灸師を雇用して、鍼灸治療支援活動を実施しています。いずれの活動地でも、地元医療機関と連携をはかりながら活動を行っています。また、災害時に活躍できる鍼灸師の養成を目的とした「災害鍼灸チーム育成プログラム」の第2回目開催が2014年9月6、7日に決定しました。

月別鍼灸治療のべ患者数（2013/12から2014/5月末まで）

大槌町	12月	141人	雄勝町	12月	41人(8日)
	1月	115人		1月	37人(8日)
	2月	98人		2月	33人(8日)
	3月	114人		3月	38人(8日)
	4月	133人		4月	43人(9日)
	5月	106人		5月	44人(9日)

AMDA 大槌健康サポートセンター

地域の方々の「心身の健康」をテーマとし「コミュニティスペース」と「鍼灸室」を備えたAMDA大槌健康サポートセンターの運営を行っています。コミュニティスペースでは、住民の方が集える場所、意欲形成の場所として、様々な教室事業やイベントを実施しています。

現在月に1回のペースで、地域の子育て支援として主に育児中の母親や妊婦を対象とした「まんまるサロン」を岩手県の助産師と共催で行っています。

沿岸部の被災地では、母親学級のような妊婦からの相談や育児中の母親からの相談を気軽にできる場所が不足しています。そこで、2011年10月から岩手県助産師会「まんまるチーム」の助産師らの呼びかけによりスタートした企画で、2013年12月からはAMDAとの共催事業となりました。

「ほっと安心」する時間を普段着の助産師が向かえるお茶っこの会として災害の影響から子育ての悩みを抱えたり、孤独になりがちな母親が子どもと一緒に気軽に飲みながら、子育てや自分のことを自由に話せる機会となっています。

地域で母親たちがつながることは、子育てのしやすい環境づくりにもつながっていく母子支援事業になるものと考えます。

参加した方々からは「ゆっくりお茶を飲みながら話す場所がないの

で、とてもんびりできた」「ちょっとした子育ての悩みを助産師さんに相談できて安心した」「普段、育児と家事におわれて自分にかまう時間がないので、話をゆっくり聞いてもらったりマッサージをしてもらったりと、自分が大事にされているのが嬉しい」などの声が寄せられています。その他にも、住民の心身の健康づくりを目指した「フライパンでつくる天然酵母パン教室」「健康体操教室」など様々な教室事業を行っています。



妊婦さん、子育てママさんたちのための「まんまるサロン」

AMDA 東日本国際奨学金

東日本のこれからの復興を担う世代の支援として「AMDA 東日本国際奨学金」を支給しています。これは将来医療従事者を目指す被災地の学生を対象に年間18万円(15,000円/月)を支給するもので、返済の必要はありません。

2013年3月には66名の奨学生のうち、45名が卒業を迎え、医師、看護師など、それぞれの道を歩み始めました。

2014年度は岩手県立大槌高校、宮城県志津川高校、宮城県気仙沼高校の3校の学生21人に支給しました。これを含め2011年度の支給開始からこれまでに、8校のべ274人に奨学金を支給しています。また皆様のご支援により本年度、新たに奨学生の追加募集を行うことが決定しました。現在対象となる学校との調整に入っています。

AMDA 東日本国際奨学金 奨学生から届いたお便り

2014年3月に卒業を迎えた奨学生よりお便りが届きました。以下にご紹介させていただきます。

平成24年と25年の2年間にわたり、貴法人より奨学金をご支援いただきました。おかげさまでもちまして、私は4月より親元を離れ、看護学校で学ぶことになりました。看護師になるために精一杯頑張りたいと思います。本当にありがとうございました。

いつも温かいご支援をありがとうございます。
 AMDAは認定NPO法人ですので、いただきましたご寄付は所得税控除の対象になります。今後とも一層のご支援をお願い申し上げます。なお、2,000円以下のご寄付および会費は控除の対象になりません。詳しくは事務局までお問い合わせください。

ボスニア・ヘルツェゴビナ 洪水被災者に対する緊急医療支援活動

5月13日にボスニア・ヘルツェゴビナとセルビアを中心としたバルカン半島でサイクロン・タマラ (Tamara) が発生し、1983年以来、観測史上最悪となる豪雨に見舞われました。

ボスニア・ヘルツェゴビナだけでなく、隣国セルビアやクロアチアにも被害が及んでおり、3国を合わせた死者数は53人、避難者数は約99万人、被災者数は約313万人と報告されました。ボスニア・ヘルツェゴビナの被災者数は、同国の人口の39%となる150万人に上りました。(ACAPS: Assessment Capacities Project 5月23日発表)



洪水の影響で、橋が崩落した様子
復旧のめどはたっていないという

が提供することができる状況が確認できました。しかしながら、病院へ来ることができない家庭があることから、個別訪問を決定。衛生用品のほか、米や調味料などの食料を支援物資として準備し、訪問診療の際に手渡すことができました。

訪問診療を実施したのは、糖尿病により両足を失った高齢の患者宅や脳梗塞で歩行が困難になった高齢の患者宅ほか、のべ6件。訪問先では一様に、日本からの看護師の訪問を「わざわざ日本から支援に来てくれて嬉しい」と感謝の言葉で迎えられましたが、今回の災害で精神的に大きなダメージを受けている人も多く見られました。そこで、今後もAMDAボスニア支部が中心となって、支援が行き届いていない方々のために、家庭訪問や、健康状況のチェックのほか遠隔で精神カウンセリングを行える拠点を設置し、今後も被災者の方々のカウンセリングを継続していく予定です。

■派遣者：岩本智子/看護師(米国免許)/本部職員



このような状況の中、5月16日にAMDAボスニア支部長のミラン医師から救援要請の第一報が入り、AMDAでは被災地へ看護師の派遣を決定。5月21日に日本を出発して、隣国セルビアを経由して被災地バニャルカへ到着しました。23日、24日はバニャルカ市内の被災地域や近隣のチェリナック町とクルパ村を訪問し、現地調査を行いました。水は完全に引いており、店舗などは少しずつ再開しているものの、橋や道路が壊れており、復旧のめどは立っていない状況で、建物には浸水の跡が残っており、浸水被害の大きさを物語っていました。

26日からは被害が大きかった地域の一つでもあるドボイ市を訪問。中核となる病院は高台にあり、洪水の被害を免れていたため、ドボイ市内の医療や食糧は病院



地元医師とともに被災者への訪問診療を行う
AMDA 岩本医師

フィリピン台風30号被災者に対する緊急・復興医療支援活動

2013年11月8日に、台風30号がフィリピン南部の島々に上陸し、死者6,300人、負傷者28,689人、行方不明者1,061人、約1,607万人、342万世帯が被災し、家屋の被害が114万件を超える、大きな被害をもたらしました。(フィリピン国家災害対策本部2014年4月17日発表)

この状況を受けてAMDAでは、緊急支援活動として医療チームの派遣を実施。2013年12月末までで、のべ8か国25人のスタッフを派遣し、レイテ島、サマル島、ボホール島、パナイ島、ネグロス島、セブ島などで医療を中心とした様々な支援活動を実施しました。2014年1月からは復興支援活動として、被災地の協力機関と連携をとりながら、支援活動を継続しています。

フィリピン台風30号復興支援会議を開催 ～南海トラフ地震にそなえて～

被災したレイテ島タクロバン市と姉妹都市の関係にある福山市生涯学習プラザを会場に、4月26日、福山市医師会と合同で「フィリピン台風30号復興支援会議～南海トラフ地震にそなえて～」を開催し、約100人が参加しました。被災地レイテ島の医師会長が登壇し、被災地の現状などを報告。さらに広島県教育委員会など5団体からの支援活動報告をうけ、今後発生を懸念されている南海トラフ地震をはじめとする大災害への備えや、今後の復興支援の在り方などを、話し合うことができました。



福山市医師会との合同シンポジウムの様子

無料診療活動の実施



巡回診療の様子

復興支援の一つとして、被災地の地元協力機関の一つであるフィリピンレイテ島のレイテ医師会と合同で定期的な無料巡回診療を実施しています。これまでに3回が開催されました。3月30日はタクロバン市サンホゼ地区、4月13日はカリガラ町サンマテオ地区、5月8日はタクロバン市タナウアン地区で巡回診療を実施、3月30日には診療のほかに、子どもたちへのおかゆの炊き出しも行いました。これまでの3回の巡回診療ではのべ755人を診察。成人患者では上気道感染症、高血圧症、尿路感染症、関節リウマチなどが多く、小児患者ではウイルス性上気道炎、皮膚疾患などが見られました。また4月の開催では女性を対象に子宮がん、乳がん検診も実施され、検診を受けた地元の女性からは多くの感謝の言葉が寄せられました。

AMDA フードプログラム

AMDA 野土路農場 田植えとアヒルの進水式を実施

「食は命の源」をコンセプトにアジアに有機農業を啓蒙・普及することを目的とするプログラムとして、2011年から岡山県真庭郡新庄村に有機農業実践圃場として「AMDA 野土路（のとり）農場」を構え、アヒルを使った有機農業を実践しています。

6月2日には地元新庄村の「田植え歌」に合わせて、手で田植えをするセレモニーを実施。また、新庄村保育園児たちの歓声とともに、アヒルが水田に放たれました。秋の収穫に向けて、専任スタッフが中心となって今年も良いお米を作っていきます。



新庄村保育園児とともにアヒルの進水式



研修生2名とともに。写真中央左からタンバロ氏、笹野村長、マルティリツ氏

フィリピンからの農業研修生来日 有機農業研修がスタート

AMDAと新庄村が合同で進める「有機農業技術移転プログラム（※）」として2014年度の研修生がフィリピンルソン島から2名、6月1日に来日しました。研修生2名は、いずれもフィリピンで有機農業に携わる農場のリーダーで、タンバロ氏とマルティリツ氏。「日本の先進的な有機農業の方法をたくさん身につけて、母国で多くの人に伝えていきたい。また自分たちがこれまでやってきた有機農業の技術を、日本の人にも伝えていきたい。より良い研修にしていきたい。」と意欲的な姿勢を見せています。

研修期間は11月の中旬まで。期間中はAMDA野土路農場での研修のほか、新庄村内外で様々な研修や交流の機会を予定しています。

インド無料白内障手術事業

AMDAは、パンニャ・メッタ・サンガ（インドの宗教法人）と天台宗一隅を照らす運動総本部と共同で、インド中部のナグプール県で、貧困層を対象に白内障無料手術事業を実施しました。

2014年2月15日にナグプールの医師・看護師ら10人が、ナグプールから南東90kmにあるポーニにあるパンニャ・メッタ・サンガの施設で、白内障手術に向けての眼科検査を行ったところ、受診者191人のうち74人が白内障と診断されました。

そして、2月23日には大型バスで、74人の患者をポーニからナグプールのマハトメ眼科医院に移送し、手術前の検査を行ったのち、24日に手術を実施しました。手術後は、入院して一日経過観察を行った後、25日に帰宅しました。



白内障手術のための事前検診の様子

スリランカ歯科診療および歯科衛生教育指導プログラムを実施



歯科治療の様子

AMDAはバドゥラ歯科健康保健省（DDHS）と連携して、4月7日にスリランカバドゥラの郊外にあるパルガハラワ学校で歯科検診と保健指導を実施しました。

朝食を生徒たちに提供し、食後に歯磨き指導も実施。指導後は歯磨きセットを生徒に配りました。歯科検

診は学校初の試みで、多くの生徒にとってこれが初めての歯科検診となりました。その結果として、要治療と判断された生徒は多く、医療チームは3つに分かれて年齢に応じた歯科治療も行いました。1日で生徒150人、教員25人、さらに低学年の生徒に付き添っていた親にも検診を行うことができました。検診終了後には校長先生をはじめ保護者や地域の人から感謝が述べられました。さらに学校には保健指導教育の教材やスポーツ用品を寄付しました。

※）有機農業技術移転プログラム

アジアの国への技術移転を目的として取り組んでいるプログラム。海外からの有機農業研修生を半年間、新庄村AMDA野土路農場で受入れを行い、有機農業の技術を指導。研修生の帰国後は、AMDAと新庄村から技術指導者が現地を訪れ、フォローアップを兼ねた指導を行う。2013年スタートし、インドネシアスラウェシ島マリノ村から研修生2名を招へいし研修を実施した。

AMDA フードプログラム インドネシアスラウェシ島マリノ村 有機農業への取り組みを実践中

2013年度研修生として、インドネシアスラウェシ島マリノ村から研修生2名が来日しました。6か月間の日本国内での研修の後、現在は研修生と地元の協力者が中心となって、マリノ村で有機農業をスタートしています。2014年2月にAMDAと新庄村の専門家が技術指導のためマリノ村を訪問。現在は、インドネシアからメールで、農作物生育状況などが写真とレポートで届き、AMDA、アジア有機農業連携推進協議会（新庄村）が合同で、アドバイスなどを送るなどして、モニタリングを継続しています。



研修生のレポートから 田植え後の様子

AMDA 東日本復興支援事業

被災地間相互交流事業 ～第6回復興グルメF-1大会開催～



多くの人でにぎわった会場の様子

三陸沿岸部
 一帯の商店街
 が復興に向け
 て一丸となり、
 東北の現状お
 よび情報を全
 国的に発信す
 るとともに、情
 報や知恵を共有することで新たな復興への協力体制を形成することを目的として2013年1月からスタートした「復興グルメF-1大会」が2014年4月に第6回大会を開催しました。会場となったのは宮城県七ヶ浜町。天候にも恵まれ、予想を上回る約6000人の方が会場を訪れました。七ヶ浜町サッカースタジアム前駐車場に設置された会場には11地域14チームの「復

興グルメ」が
 出店し、お昼
 には売り切れ
 の店舗が続出
 する賑わいと
 なりました。投票の結果は、地元七ヶ浜商店街の「海鮮あんかけ七宝汁」が優勝を果たし、前回優勝のTEAM南相馬[かしま福幸商店街]から優勝トロフィーが贈られました。

興グルメ」が
 出店し、お昼
 には売り切れ
 の店舗が続出
 する賑わいと
 なりました。投票の結果は、地元七ヶ浜商店街の「海鮮あんかけ七宝汁」が優勝を果たし、前回優勝のTEAM南相馬[かしま福幸商店街]から優勝トロフィーが贈られました。

第6回大会の開催に先駆けて、2014年3月には各商店街や団体の中心メンバーが岡山に集まりました。これは、被災地間相互交流としての復興グルメF-1大会の意義を確認し、今後の運営について話し合いをすることを目的の一つに実施しました。その結果、被災地の方々を中心とした「AMDA復興グルメF-1大会運営事務局」が発足し、本大会から開催地と運営事務局の主催で開催しました。

第6回開催では、開催地と運営事務局、近隣の被災地が相互に協力し合い、素晴らしい大会を開催することができました。次回第7回は、7月13日に、岩手県陸前高田市で開催します。

第6回復興グルメF-1大会と岡山からのボランティアバスツアーを運行



イベントブースで復興グルメ販売のお手伝い

震災から3年以上が経過し、被災地の情報が少なくなる中、多くの方に、東日本被災地に気軽に足を運んでいただき、被災地の現状を知っていただく機会として、また改めて被災地の現状について考え、今後発生しうる南海トラフ地震などに備え、災害に対する危機管理について考える機会として、さらには岡山からの支援メッセージを届ける意味も込めて、第4回復興グルメF-1大会の開催から、大会ごとに準備、運営を行うボランティアツアーを運行しています。第6回大会でも同様に4月11日に岡山を出発し、車中2泊、宿舎1泊という強行スケジュールで、高校生から70代の方まで、全40名が参加しました。会場ではテント設営から当日の会場受付、ブースの手伝いなどを行い、そのほかにも地元の方などとの交流会も行われました。次回は7月に運行予定です。

震災から3年以上が経過し、被災地の情報が少なくなる中、多くの方に、東日本被災地に気軽に足を運んでいただき、被災地の現状を知っていただく機会として、また改めて被災地の現状について考え、今後発生しうる南海トラフ地震などに備え、災害に対する危機管理について考える機会として、さらには岡山からの支援メッセージを届ける意味も込めて、第4回復興グルメF-1大会の開催から、大会ごとに準備、運営を行うボランティアツアーを運行しています。第6回大会でも同様に4月11日に岡山を出発し、車中2泊、宿舎1泊という強行スケジュールで、高校生から70代の方まで、全40名が参加しました。会場ではテント設営から当日の会場受付、ブースの手伝いなどを行い、そのほかにも地元の方などとの交流会も行われました。次回は7月に運行予定です。

参加者の感想 (一部抜粋)

高校生 今回初めて、被災地を訪問しました。テレビでは伝わらない光景が目の前に広がっていました。直接震災の話聞くことは、テレビなどから聞くより鮮明で、とても心に残りました。被災地というと暗い印象があったけれど、イベントで出逢った被災地の人たちは元気で、明るくて自分のほうが元気づけられました。またぜひ、参加したいです。

大学生 高校生から大人の方まで、同じ思いを持った人たちと一緒に活動することができて本当に良かったです。私自身、東北は何度かボランティアできていますが、今まで参加したボランティアは泥出しとか、遺品さがしとかつらい思いをすることが多かったです。でも今回ボランティアバスで、一緒に被災地の人とイベントを作って盛り上げて、今までで一番楽しいボランティアの経験になりました。また皆さんと一緒に、東北を訪れたいです。



ボランティアバス参加者のみなさん

■ 第7回復興グルメF-1大会ボランティアバス 参加者募集! (お問い合わせお申込みは AMDA ボランティアセンターまで)

第7回復興グルメF-1大会の開催に合わせて、AMDAではボランティアバスを運行します。イベント前日の会場設営や、当日の運営をお手伝いいただくボランティア活動です。その他にも、被災地の見学や、被災地の方やイベントボランティアの方たちとの交流会も予定しています。第7回の開催地は岩手県陸前高田市。たくさんのご参加をお待ちしております。

【参加費】 AMDA会員 10,000円、非会員 12,000円
 (バス代、宿泊代含む。食事代、ボランティア保険料は含みません)

【スケジュール概要】

7/11 19:00 岡山駅発 (車中泊)
 7/12 12:30 岩手県陸前高田市高田小学校到着
 イベント準備後、被災地視察 16:45 復興支援について考えるボランティア研修会 18:00 夕食交流会 20:30 宿泊施設到着 (宿泊施設泊)
 7/13 6:00 宿泊施設発 岩手県陸前高田市高田小学校到着 イベント運営・撤収 16:00 出発 (車中泊)
 7/14 9:00 岡山駅着

◆東日本大震災復興支援活動の軌跡◆ (2013年12月～2014年5月)

2013/12/23-2014/1/5	冬季医療ボランティア派遣 (公立志津川病院、南三陸診療所)
2014/1/17-1/20	F-1 グルメボランティアバスツアー (岡山発着 福島県南相馬市)
2014/1/19	第5回復興グルメF-1大会開催 (福島県南相馬市)
2014/1/26-2/1	ボランティア医師派遣 (石巻市立雄勝診療所)
2014/2/2	震災ホームレス支援 AMDA 支援農場お米発送②
2014/2/23-3/1	ボランティア医師派遣 (石巻市立雄勝診療所)
2014/3/1	AMDA復興グルメF-1大会運営事務局発足会議開催 (岡山市)
2014/3/2	被災地間相互交流フォーラム開催 (岡山市)
2014/3/13-3/14	おかやまコープボランティア受け入れ (大館町)
2014/3/16-3/31	春季医療ボランティア派遣 (米山市立よねやま診療所)
2014/3/21	富山大学医学部被災地訪問受け入れ (石巻市雄勝町)
2014/4/11-4/14	F-1 グルメボランティアバスツアー (岡山発着 宮城県七ヶ浜町)
2014/4/13	第6回復興グルメF-1大会開催 (宮城県七ヶ浜町)